

令和5年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 キャリア教育の充実	4 地域社会への貢献
		3 変化を求める		5 的確な情報発信	6 用務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基礎学力の向上	家庭学習を充実させ、基礎学力を定着させる。	1 1時間以上の家庭学習を行っている生徒の割合：23.7% 2 学力層の上下間の格差が広まっている。 3 ICT活用を進めているところ。 4 授業理解における肯定的評価」の割合：84.6%、朝読書・朝勉強テストで知識が身についていると感じている生徒の割合：80.7%	1 1時間の家庭学習を行っている生徒の割合：30%以上 2 学力下位層の底上げが行われている。	1 各教科が連携して家庭学習に取り組ませると同時に、生徒自ら学びを深めたいくなるような仕掛け作りを行う。 2 定期考査や各種検定の対策を行う等きめの細かい学習指導を行う。	1 chromebookを活用して生徒に復習を促し、次の授業に繋げる工夫をしている。(数学科) 2 考査の事前事後に講習や再テスト等の個別指導を行い、成績不振者対策を行っている。	B	1 及び 2 個人、教科の取組を全体の取組に広げていく。
	一般教養を習得させ、社会人としての必要な力を身に付けさせる。		3 全ての教員がICTを活用した授業を行っている。 4 授業理解における肯定的評価」の割合及び朝読書・朝勉強テストで知識が身についていると感じている生徒の割合：85%以上	3 Chromebookを授業や課題に積極的に活用する。そのための校内研修を充実させる。 4 探究的な学習活動を充実させる。(自ら課題を見つけ解決策を模索する取組の実施)朝読書を教職員全体の取組として行う。	3 ICT支援員を活用しながら、各自が個人の習熟度を高めているところ。 4 1日のリズムを作るきっかけとして朝読書は効果があるが、生徒の読書量の増加には繋がっていない。	B	3 研究授業や研修会を通して、各自のスキルを共有していく。 4 朝読書の必要性は職員間で共有しているが、継続的に検証していく。

令和5年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 キャリア教育の充実	4 地域社会への貢献
		3 変化を求める		5 的確な情報発信	6 用務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
2 基本的生活習慣の確立	知・徳・体のバランスが良い生徒を育成する	1 基本的な生活習慣が確立していると考えている生徒及び保護者の割合：92.4%及び94.4% 2 ハイパーQUの分析を教員間で共有し、生徒理解に努めている。 3 9割以上の生徒がきちんとした着こなしを心がけている。	1 基本的な生活習慣が確立していると考えている生徒及び保護者の割合：両者とも90%以上 2 引き続き生徒理解に努め、全職員で共有している。	1 生徒、保護者、教育相談をはじめとする校内組織及び関係機関の連携を強める。 2 ハイパーQUやストレスマネジメントを継続して行い、情報を共有しながらきめ細かく対応していく。	1 生徒指導・教育相談に係る事例は分掌を超えて職員全体で共有し、状況に応じてSCやSSWに相談している。 2 情報交換会を夏季休業中に実施したが、参加職員が少なかった。ストレスマネジメントを9月に実施。	B	1 引き続き共有を図り、重大事案につながることを防ぐ。 2 情報交換会の開催時期、方法等について検討する。ストレスマネジメントは生徒の反応はよく今後も実施予定。
	社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識を習得させる	4 分離礼の取組や環境保全についての啓発活動을積極的に行っている。	3 9割以上の生徒がきちんとした着こなしをしている。 4 継続的に分離礼の取組や環境保全についての啓発活動を積極的に行っている。	3 服装面・生活面ともに全職員で連携し、粘り強く指導する。 4 学校生活の全ての場面で礼儀・作法について指導する。環境問題への関心が高まるよう図書館等と連携しながら新しい情報を生徒に提供する。	3 月毎に一斉服装指導を実施。乱れのある生徒に対しては、コミュニケーションを取りながら継続的に指導している。 4 日々の授業の様々な場面で、学級担任や教科担任が継続的に指導している。		3 及び 4 各教員が本校の指導方針を理解し、同じ目線で指導していく。

令和5年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦 1 意欲を育てる 2 成長を支える 3 変化を求める	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上 2 基本的生活習慣の確立 3 キャリア教育の充実 4 地域社会への貢献 5 的確な情報発信 6 用務改善の取組
---------------------------	--	----------------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 的確な情報発信	メディアを利用して、教育内容を分かりやすく伝達する。	1 授業や教育活動の様子をホームページやfacebookに掲載し、マスコミにも情報提供を行っている。	1 ホームページやfacebookがさらに見やすく充実したものになっている。	1 教職員がICTの知識を深めることで、より多くの教職員が情報発信を行う。	1 4月以降50を超える新着記事を掲載した。特に調理コースに関する記事が充実している。	A	1 商業に関する記事をより多く掲載することで、ホームページのさらなる充実を図る。
	特色ある専門高校としての人材育成に取り組む姿を発信する。	2 米南みつばち学習発表会は多くの保護者や来賓を迎え、充実した内容で実施することができた。	2 みつばち学習発表会の内容が深まり開かれたものになっている。	2 取組に探究的な要素を取り入れ、発表方法も工夫する。一般の方の観覧も検討していく。	2 両学科ともに、課題研究発表会に向けて準備しているところ。	B	2 探究的な要素を取り入れようとしているが、そのため進捗状況に遅れがみられる。日々の授業を通して探究学習のプロセスを習得させる。
4 キャリア教育の充実	職業観・勤労観の育成を図り、進路の実現を目指す。	1 インターシップをはじめ様々な進路に関する事業の実施によって、進路実現の意識は高まっている。 2 総合型選抜や学校推薦型選抜の対応を丁寧に行うことができた。	1 生徒の職業観・勤労観が高まり、明確な進路意識を持っている。 2 大学進学を目指す生徒がより高い意識を持って受験に挑戦している。	1 1年時から早い段階で進路意識を高めるための取組を行うと同時に各事業をより充実したものとする。 2 進学に対する生徒の積極性を引き出す体制作りと情報提供を行う。	1 1年生対象学校・企業見学の際、生徒に進学と就職の選択をさせていたが、全員に両者に参加させることとした。 2 鳥取環境大学を招き、生徒及び保護者対象の「放課後進学セミナー」を実施した。	A	1 及び2 3年担任団とキャリア形成部が連携を密にして進路指導に取り組んでいる。各事業を活用しながら、早い時期から進路意識を高めていく。
	専門的な学習の取組を深め、より高度な専門資格を取得させる。	3 専門的な学習を深めることができたと考える生徒の割合：94.6%	3 専門的な学習を深めることができたと考える生徒の割合：90%以上	3 専門的科目の時間数を確保するための補充授業を実施する。(調理コース)また、高度な資格に挑戦しようとする生徒を増やし、系統的な指導をおこなう。さらに、STEAM教育に繋がるような教育活動を計画していく。	3 今年度から月に1回程度1, 2年生にも補充授業を実施しているが、時間数確保が難しい状況。資格取得の学習会や個別指導を充実させることで、資格取得に向けた意識を高めている。1学期に教員対象のSTEAM教育研修会を実施した。	B	3 体験的活動等休業日や荒天時の臨時休業等で時間数が確保できない。学校行事の精選も含めて柔軟な計画づくりが必要。STEAM教育に繋がる授業を各自が実践し、教員間で共有する。

令和5年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 キャリア教育の充実	4 地域社会への貢献
		3 変化を求める		5 的確な情報発信	6 用務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
5 地域社会への 貢献	地域活力の導入や地域活性化の推進を行う。	1 課題研究において地域課題の解決法を模索し、実践活動に取り組むことでふるさとへの愛着が生まれた。	1 生徒が探究心を持って主体的に課題研究に取り組んでいる。	1 生徒が主体性を持って課題研究に取り組み仕掛けづくりを行い、地域へ積極的に出向いていく。	1 商店街、高齢者施設、企業等に積極的に出向き主体的な学習になる仕掛け作りを行っているところ。	B	1 制限がなくなった現在、これまで以上に校外に出向き地域から学ぶ。
	学校や地域で主体的に行動でき、地域社会の発展を進める人財を育成する。	2 家庭クラブが中心となり、中海アダプトプログラムや米フェスタ、米子空港での販売実習に取り組んだ。 3 社会貢献を推進しようとしている生徒の割合：82.5%	2 販売実習等に主体的に取り組むことで、生徒が地域に愛着をいただき、地域の方々も本校を応援している。 3 社会貢献を推進しようとしている生徒の割合：85%以上	2 地域交流の拠点となる施設との交流や連携を深め、地域に密着した活動を行う。また、eスポーツ活動を通じて高齢者施設等とのつながりを深める。 3 生徒が達成感を感じることができ活動にすることで、生徒の積極性を高めていく。	2 各種イベントで、本校の物販ブースを開き専門高校の魅力を伝えた。eスポーツ部は、8月末現在でのべ11回のイベントを企画・参加した。 3 ボランティア活動の案内を生徒に周知し、積極的な参加を促しているところ。	A	2 世代を超えて地域の方々と交流し、生徒に達成感や充実感を持たせる。 3 ボランティアをはじめ、校内外の様々な活動に生徒を挑戦させる。
6 業務改善の取組	ワークライフバランスを保つことを推進する。	1 時間外業務が年間360時間を超える職員の割合：5.7%（昨年度より減少） 2 一部教員に長時間勤務が偏る傾向がある。	1 各個人の時間外業務が月30時間以内（最大45時間）以内、年360時間以内 2 「部活動に係る活動方針」沿った部活動が行われている。	1 業務の効率化を図り、教員間で分担することで科内及び分掌内で協働・共有化を図る。 2 休日の部活動においては、できる限り顧問間で分担し、指導するようにする。	1 時間外業務は前年比95%（8月末現在）。 2 一月当たりの時間外の部活動指導時間を30時間以内としている。	B B	1 引き続き業務の効率化を図る。 2 複数顧問での業務分担を進める。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成。
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]